

①	今年度の課題と授業改善策	
	学习上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<p>&lt;学習上の課題&gt;国語の作文における言語の使い方や正しく表記することに課題が見られる。</p> <p>&lt;指導上の課題&gt;言葉の意味や文の読解を意識した言語活動の時間を確保できていない。</p> <p>&lt;学習上の課題&gt;算数「数と計算」の加減乗除についての習熟に課題がある。また、図形の特徴や構成要素をとらえることに課題が見られる。</p> <p>&lt;指導上の課題&gt;児童の反復・習熟時間が充分でない</p>	<p>⇒</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目的に応じて適切な言語を選択して話したり書いたりできるように、目的意識を明確にした短文づくりや、言葉の意味を調べる言語活動を、朝学習や国語の授業で積極的に行う。【活動ごとにコメントをいれて評価する】</li> <li>・ICTの活用や学習形態の工夫による授業の効率化を図り、毎時間の算数授業後半に計算ドリルやドリルパークなど、習熟に取り組む時間を確保する。【その年度実施状況を確認する】</li> </ul>
思考・判断・表現	<p>&lt;学習上の課題&gt;話し手の意図や、資料から伝わることの中心を的確にとらえて、自らの考えを表現につなげていくことに課題が見られる。</p> <p>&lt;指導上の課題&gt;学習活動が多岐にわたるため、子ども同士が考え、子ども主体の学びとなる授業機会を十分に確保できていない。</p>	<p>⇒</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・伝えたいことや表したいことを明確にできるように、文や資料から読み取ったことを根拠をもって説明する学習活動をより多く取り入れる。</li> <li>・算数においては、課題や計画を自分たちで決めて学習を進めていくことで、自ら課題を解決した実感を伴った学びにつなげていく。</li> <li>・どの教科においても、ICTを効果的に活用して考えを比べながらまとめ、説明する活動を積極的に行う。【R6さいたま市学習状況調査質問項目「話し合い活動を通じて考えを深めたり広げたりできているか」において肯定的な回答90%以上】</li> </ul>

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	<p>国語では、相手に適切な言葉を用いて話すことについて理解ができていた。一方、文の中で漢字を正しく使うことに課題が見られた。児童質問「家にとどのくらい本がありますか」「新聞を読んでいますか」の回答結果が全国平均よりやや低いことから、本や新聞にふれる機会を増やすことで言葉を知り、自分の考えを広げられるよさに気付けるようにしたい。</p> <p>算数では、除法の計算や円周率の関係、速さの関係についての理解に特に課題が見られた。また、数量の関係を的確にとらえ、立式につなげることに課題がある。児童質問では算数を学ぶことに肯定的な回答が多いことから、児童個々の課題にあった演習問題により多く取り組み、支援をすることで理解を深め、個別最適な学びになるような授業改善を図りたい。</p>
思考・判断・表現	<p>国語では、「話すこと・聞くこと」「書くこと」を中心に、情報を集め、自分の考えを工夫したり、伝えたいことを明確にして表現したりすることができている。「読むこと」では登場人物像への想像や場面の効果を的確にとらえ、自分の考えにできている。これからも、目的を明確にした児童のさまざまな言語活動への丁寧な支援をしていきたい。</p> <p>算数においては、自分の考えを言葉や式などで記述することに大きな課題があり、「どうしてそうなるのか」の理解を深めるためにも、ICTの活用や学習形態の工夫によって、自分の考えと友達のを比較しやすくなったり、説明したりする協働的な学習場面を、より積極的に設けていこうにしたい。</p>

③	中間期報告	中間期見直し	
	評価(※)	授業改善策【評価方法】	
知識・技能	B	<p>・漢字・計算スキルやドリルパークを計画的に活用して習熟を図った。</p> <p>・文の叙述や使われている言葉に着目して、考えを比較しながら読み取りをしてきた。</p>	<p>特に算数の授業では、児童が何を学ぶのかどこまで到達すればよいかを明確にするために、ルーブリックを活用して個々設定できるようにする。</p> <p>【単元ごと、または授業ごとに実施】</p>
思考・判断・表現	B	<p>・ICTを活用して考えたことを児童どうしで共有して、考えを広げられるようにした。</p> <p>・根拠をもった説明を意識して、学んだことを生かせるような言語活動を行った。</p>	変更なし

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	<p>国語では、主述の関係や指示語・敬語の理解は比較的理解できている。一方で漢字を文の中で正しく使うことと修飾・被修飾の関係の理解にやや課題がみられる。算数では、計算や図形の性質の理解が徐々に進んできているが、まだ市平均正答率を上回っていない。また、グラフを正しく読み取り、分析したり活用したりすることに課題がみられる。社会は、本校の平均正答率が概ね市平均程度であった。特に地図や図表の読み方の理解を高めていきたい。理科では、主にエネルギーと粒子における領域の理解に課題がみられた。自然現象についての法則の理解を高めるために、問題を探求する活動をより深めていきたい。各教科の正答状況を見ると、前年度までに学習した内容の理解が希薄になっている項目が複数あった。授業において既習事項や他教科との関連をより意識した学習活動を行っていく。</p>
思考・判断・表現	<p>国語では、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」においておおむね市平均正答率を上回っている内容項目が多い。その中で、話し手の意図をとらえて考えをまとめたり、表現したりすることについては課題がみられる。算数では、数量や図形の変化を理解して、それらの関係を考察することや、示された場面において複数の数量から必要な数量を選び立式することに課題がみられた。社会では事象に対する考えをもつことができているが、人々の願いや思いと社会生活を関連付けて考えることに課題がみられた。理科では実験や観察の結果から考えられることを導きだしたり、得られた理科の知識を日常生活や他の事象と適切に結びつけて考えたりすることに課題がみられる。</p>

⑤	評価(※)	授業改善策の達成状況
知識・技能	A	<p>・目的に応じて適切な言語で話したり書いたりできるように、目的意識を明確にした表現活動(ポスター作りなど)をした。また、ICTの活用や学習形態の工夫による授業の効率化を図ったため、毎時間の算数の授業後半に計算ドリルやドリルパークに取り組むなど、習熟に取り組む時間を確保することができた。</p> <p>・算数を中心に、ルーブリックを用いて課題や計画を自分たちで決めて学習を進めて、主体的に取り組めた実感を伴った学びにつなげていった。</p> <p>【R6さいたま市学習状況調査 全学年「知識・技能」における平均正答率は前年度より3.2ポイント上がった】</p> <p>【R6年度さいたま市学習状況調査 質問項目38「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」における肯定的な回答96.5%】</p>
思考・判断・表現	B	<p>・文や資料から読み取ったことを根拠をもって説明したり、自分の考えを明確にしやすくなるためにペアやグループで伝え合う場面を多く設定し、協働的な学びにつなげることができた。</p> <p>・授業のまとめなどで友達の考えと比べながら自分の考えをまとめる他者参照の機会を多く取り入れた。そのため、ICTを効果的に活用した授業改善を図ることができた。</p> <p>【R6さいたま市学習状況調査質問項目39「話し合い活動を通じて考えを深めたり広げたりできているか」における肯定的な回答89.3%】</p>

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	<p>・昨年度よりも知識・技能の向上が図れたが、まださいたま市学習状況調査の平均正答率や日々学習状況をみると、漢字や計算などの習熟に向上の余地が多くみられる。朝の活動時間に学校全体で基礎学力向上を目的とした「パワーアップタイム(仮称)」として、ドリルやワークなどに取り組む時間を週に1~2回設定していく。</p> <p>・児童が、必要な知識・技能を身に付けるために主体的に学習に取り組むことについては、まだ課題がみられる。児童の学びの向上を図るために、自ら学習課題を立て、自分から学習に取り組むことができるような授業を、意図的、継続的に実施していく。</p>
思考・判断・表現	<p>・児童は相手の思いを意識して表現したり、得られた情報や学んだ知識を生活や他の教科に生かしたりすることが課題である。自分の考えを明確にして表現できるようになるために、ペアやグループで活動を行い、アドバイスしあうなどの協働的な学びの活動を引き続き行っていく。また、資料から読み取ったことや知っていることを、根拠をもって説明できるように、考えや説明の視点を示したり、他者参照をして考えを比較したりする取組みを意図的、計画的、継続的に行っていく。</p>

※評価  
 A 8割以上(達成)    B 6割以上(概ね達成)    C 6割未満(あと一步)